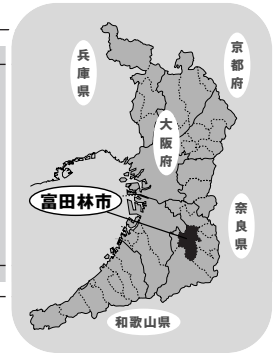


わたしのまちのPR

富田林市編



富田林市は、大阪府の東南部に位置し、西は大阪狭山市、北西は堺市、北は羽曳野市、東部で太子町、河南町、千早赤阪村、そして西南部で河内長野市と接しています。

市の北東平坦部は、南北に流れる石川をはさんで平野が広がり、古くからまちが開けており、特に寺内町には歴史的に貴重な町並みが残されています。市の南部は、雄大な金剛山・葛城山を背景に緑豊かな丘陵と美しい田園風景が広がり、西部丘陵地域は、計画的に開発の進んだニュータウンとなっています。

国道170号線（大阪外環状線）や、国道309号線など主要幹線道路が縦横に走り、近鉄長野線がとっています。

この富田林市の魅力や特色について、市長公室政策推進課長の村本さんにお話をお伺いしてきました。



本日はどうぞよろしく申し上げます。

早速ですが、富田林市の歴史を教えてくださいませんか。

よろしく申し上げます。

富田林は先史時代より人々の暮らしが営まれ、弥生時代には二上山周辺に産出するサヌカイトを利用した石器が大量に生産され、交易を通じて近畿地方に広く流通していたものと思われます。

また、石川を望む丘陵上には石川流域に繁栄したであろう氏族の首長たちの古墳が多く造営されています。

仏教が大陸から伝えられ、仏教文化が花開く中、新堂廃寺等の寺院が建立され、また織物などの新しい文化を伝えてきた人々が、富田林の地に暮らして

いたであろうことが推測されています。

平安の時代には、今も秋祭り等にぎわう美具久留御魂神社や佐備神社が、室町時代には錦織神社も創建されています。

太平記の時代においては、楠木正成の山城が築かれ、足利軍を迎え撃ちました。

応仁の乱においても、いくつかの山城が築かれ、群雄割拠の後、治世が落ち着き始めた16世紀中頃の永禄年間に、京都興正寺門跡第16世証秀上人が「富田の芝」と呼ばれていた荒地を買い受け、寺と町衆の協力によって寺内町が造営されました。

浄土真宗の御坊を中心に形成された寺内町「富田林」は、江戸期には周辺地域の商品・産品流通の中核地として発展し、明治期には郡役場や税務署、旧制中学校、高等女学校等が整備され、南河内地域の中心地として発展してきました。

その後、本市は、昭和25年（1950年）4月に人口約3万人余で、大阪府下16番目の市として誕生しました。高度成長期に、大阪市近郊の住宅地として大規模な住宅開発が進むと人口が急増し、これにあわせて都市基盤整備も進展してきました。

しかし、最近では、人口が減少傾向となっており、地域コミュニティの活力の維持や既存の地域資源を活かした地域の活性化などが大きな課題となっています。

次に、富田林市に残る、歴史的な文化財など、名所や旧跡について教えてくださいませんか？

まず、「富田林寺内町」があげられます。「富田林寺内町」は、興正寺門跡証秀上人によって創建された興正寺別院を中心とした寺内町として誕生し、商売の盛んな在郷街として発展しました。現在も創建

富田林寺内町 旧杉山家住宅



当時の六筋七町の町割りや、重要文化財旧杉山家住宅、仲村家住宅など往時の繁栄を偲ぶ重厚な町家が数多く残されています。

近鉄喜志駅の南西、丘陵のふもとにある美具久留御魂神社は、境内から本殿背後の丘陵に広がる林が市街地のなかの貴重な緑として、「大阪みどりの百選」に選ばれています。

近鉄川西駅の西に見える錦織神社の本殿は、総檜皮葺、漆塗りの華麗な建物で、特徴的な屋根の形は、全国でも数少ない貴重なものとして、左右の摂社とともに、国の重要文化財に指定されています。

弘法大師が開いたとされる、真言宗のお寺である瀧谷不動明王寺は、日本三大不動の一つといわれ、俗に「眼の神様」などと広く信仰されています。毎月28日の縁日には参道に屋台が並び、参拝客でにぎわいます。



錦織神社

美具久留御魂神社



また、市の南東、嶽山中腹にたたずむ龍泉寺は、真言宗の寺院で、594年、蘇我馬子により創建されたと言われています。仁王門は国の重要文化財に、また、境内の庭園は名勝に指定されています。



楠庇庵観音寺



龍泉寺

甘南備にある、楠庇庵^{なんびあん}観音寺は、楠木正成の夫人が、夫と子の戦死後に出家し、菩提を弔った所といわれており、夫人の没後、この庵を観音寺と改め、楠木家の菩提寺とされました。

他にも、梅の名所や、信者手作りの寺として知られる目白不動願昭寺や、新堂廃寺跡・オガンジ池瓦窯跡・お亀石古墳などがあり、これらの名所や旧跡は大阪ミュージアム構想の登録物として登録を受けています。

富田林市には、歴史ある文化財など、たくさん
の見所があるんですね。他に、富田林市のおすすめ
スポットはありますか？

はい。まずは、農業公園「サバーファーム」があります。20ヘクタールの起伏に富んだ大地に、体験農園、果樹展示園、温室、花壇などが点在している「香りと実りの農園」です。家族そろって気軽に農業にふれあうことができます。

自然の野山、池などをそのまま生かし整備された自然公園の「錦織公園」もお勧めです。羽曳野丘陵の南端に位置する錦織公園は、その面影を残した起伏に富んだ地形を保持し、「豊かな緑の中で自然とのふれあいの場」として、親しみ、楽しめる公園として造られました。公園内にはかつての河内の里山を復元した「河内の里」や、大型遊具のある「やんちゃの里」「水辺の里」があり、残された緑の中にある尾根からは、東から南へ二上山・大和葛城山・金剛

山・岩湧山・和泉葛城山の雄大なパノラマを望むことができます。

また、「総合スポーツ公園」は、自然環境を生かした市民スポーツ&レクリエーション活動の場で、野球場をはじめ、多目的競技場、テニスコート、ゲートボール場などが13.65ヘクタールの広大な敷地に整備されています。

他にも、全国でも有数の規模を誇る客席数200席、ドーム径20mの大型プラネタリウムのある、「すばるホール」などがあります。



サバーファーム



総合スポーツ公園

今春、公設の農産物直売所をオープンされ、好評だそうですが、その直売所について教えてくださいませんか？

今年の4月に、地産地消を推進するとともに、地域農業を活性化させようと、おすすめスポットとしてご紹介した農業公園「サバーファーム」内に、公設農産物直売所「にこにこ市場」を開設しました。

同市場では、約60軒の市内登録農家が納品している、名産の東條ほんわか米や、ナス、キャベツやゴボウなど約50種類のとれたての農産物を安価で販売しています。また、地元産の卵や花、米で作ったパンなどの加工品も販売しており、食への安心・安全志向が高まる中、新鮮で安心な農産物が買えるとあって、大勢の方が買い物に訪れています。

本市の農業は、これまでナスやキュウリなどの野菜を始め、ミカンの生産など、大都市近郊農業とし

て発展してきました。しかし、近年は高齢化や担い手不足、農地の遊休化などが懸念されています。同市場の開設によって、地元の農産物の消費拡大だけでなく、高齢化が進む農家の生産意欲の向上や、担い手の育成につながるものと期待しています。

次に、富田林市のまつりや行事について教えてくださいませんか？

まず、全国的にも有名なのが、「教祖祭PL花火芸術」です。毎年8月1日に行われており、多くの見物客で賑わいます。

また、8月には、寺内町燈路（平成21年度は大阪ミュージアム夏の特別展に指定されました。）があります。平成16年10月に第1回寺内町燈路が開催されました。第1回目は、地元の保存団体である「富田林寺内町をまもり・そだてる会」の設立10周年記念行事として「富田林寺内町フェスタ」が開催され、そのイベントの一つとして「城之町燈路」という名称で行われましたが、好評により、その後毎年開催されるようになりました。始めは、富田林寺内町の地区内だけで行われていましたが、平成19年度から富田林市観光協会も加わって、近鉄富田林駅や近鉄富田林西口駅から富田林寺内町へのアクセス道路へも広がっていきました。約1,000個もの行灯が並べられ夏の風物詩となっています。

寺内町燈路



他にも、寺内町界限では、『じないまち雛めぐり』が開催されます。平成19年3月に初めて「じない市実行委員会」主催で開催され、同年10月には『後の雛まつり』が開催されました。平成20年3月の第2回『じないまち雛めぐり』からは、『寺内町四季物語』として「富田林駅南地区まちづくり協議会」主

催で行われるようになりました。この催しは、寺内町界隈で、町家の土間や軒先、街かど、商店のウィンドウなど、約100ヵ所にお雛さまが飾られます。その他各町家などでお茶会やミニコンサート、フリーマーケットなども一緒に開催されます。

じないまち雛めぐり



市民の方々と協働して、様々なお祭りを開催されているんですね。市民の方の地元を愛する気持ちが伝わってきます。

富田林市では、住民と協働して富田林駅の南地区の整備を進められているそうですが？

はい。富田林駅南地区は、市の玄関口であると同時に、大阪府下で唯一の重要伝統的建造物群保存地区に選定された地区です。また、当地区の寺内町は、平成19年に、古都保存財団「美しい日本の歴史的風土100選」にも選定されました。

また、駅南地区の整備については、かねてより市民からの強い要請があり、過去から整備に向けての経緯がありましたが、平成17年3月に都市再生整備計画に基づく「まちづくり交付金事業」の採択を受け、駅前広場をはじめとする都市基盤整備事業と地域活性化事業に取り組んできました。

その中で、学識経験者・商工関係者・町会関係者・地元関係者・市の職員等による検討委員会を設置し、平成19年3月に基本構想を策定しました。策定に向けては、地元組織13団体の代表者が集まり、駅南地区の魅力の創出と持続的な地域の活性化に向けて、まちづくりのあり方や、まちづくり活動について、ワーキング会議を開催しました。

また、まちの現状や、まちづくりの進め方について、地元組織への団体別ヒアリングを行い、市民協

働プログラム基本構想を作成しました。

基本構想では、まちづくりのコンセプトを『歴史・文化と共生する「賑わい」と「おちつき」のあるまち』とし、まちづくりの基本目標として、歴史的風土の感じられる「まちなみづくり」と、駅前から寺内町まで一体となった「賑わいづくり」、そして寺内町の顔となる「駅前の玄関作り」を掲げました。

こうした取組を通じて、市民の方の意見を伺うことで、今まで気づいていなかった問題点の発見や、まちづくりに対するアイデア等を取り入れることができました。

今後も、コンセプトにもとづき、基本目標に向けて地域魅力を創出するために、整備を進めていきたいと思っています。

市民と協働して、さらに魅力を高め、地域の活性化に取り組まれているんですね。

最後になりますが、まちづくりについて、今後の抱負などを教えてください。

定員管理計画に基づく職員数の削減や事務事業の見直しによる経費の削減、受益者負担の適正化、集中改革プランの着実な実行など、財源の確保に努める中で、「福祉・医療の充実」や「学校教育の推進」、「安全・安心なまちづくり」などの事業に取り組んでいるところです。

「教育・子育て」「健康・安心・支えあい」「まちと環境の再生」「地域力の向上」「行財政改革の推進」の五つの柱をこれからも引き継ぎ市政運営の基本として施策を進めます。

来年は、市制施行60周年を迎えます。市のイメージキャラクターを作成するなど、市のPRにも力を入れていきたいと思っています。

今後も、市民の方との協働で、「みんなでつくり、育もう、魅力あるまち 富田林」という基本理念のもと、だれもが誇りと愛着のもてる富田林市を実現していきます。

今後、ますますまちの魅力が増し、一層躍進されることを願っております。本日はどうもありがとうございました。